

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保小学校	校長	豊田 浩矢	生徒指導主事	内田 哲雄
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『久保のこだわり』

取組における育てたい資質・能力

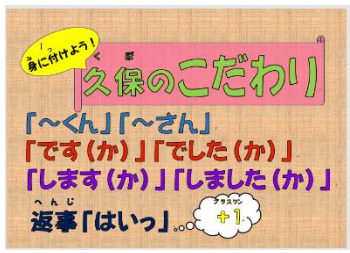
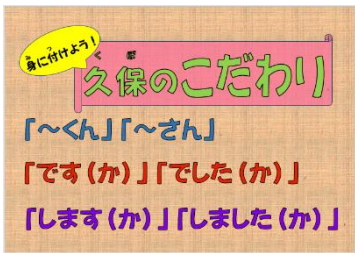
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「共感力」	3	「自らの自信」	2

取組のねらい

・児童が正しい言葉の使い方を身に付けることを通して、相手を尊重する態度を育てる。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『他者理解』
----------	-------------------

<p>学級活動において、言葉遣いの指標「久保のこだわり」を掲げ、児童に言葉遣いに着目させた。</p> <p>まずは、授業中に気を付けるということで、以下の点に絞り、徹底して指導を行った。指導の注意事項として、「教師が児童の手本となる。または、児童が誤った語尾の使い方をした場合、教師が正しい話し方の手本を示す。」「できている児童をほめる・認める」ようにした。</p> <p>○原則、教師は名字で児童を呼ぶ。(学級内に同姓がいる場合等は除く)「～くん、～さん」</p> <p>○授業中は、児童どうしであっても名字で呼び合うようにさせる。「～くん、～さん」</p> <p>○授業中や、児童が教師に質問するとき、語尾(「～です」「～ます」「～ですか」等)をていねいに使えるようにさせる。</p>	<p>・各月毎に、児童・教師に「言葉遣い」についてのアンケートを行い、その中で、学級で1番「言葉遣い」に気を付けていると思う人を記入させた。集計した結果、学級で1番多く選ばれた児童を「久保のこだわり名人」とした。</p> <p>・「久保のこだわり名人」に3回選出された児童を、「久保のこだわり名人殿堂入り」として、表彰を行うとともに、校内掲示にて紹介した。</p>
--	--



令和2年度3月からの取組

令和3年度3月からの取組 返事「はいっ」の追加

取組の成果と課題

取組の結果、「言葉遣いに気をつけて話している」項目の児童の肯定的評価が92%（1月の集計結果）で、高い数値を示している。教師の見取りとしても、「児童は言葉遣いに気をつけて話している」項目において、100%（2月の集計結果）であることから、言葉遣いに気を付けて話す児童が増えていることが分かる。また、授業中だけでなく、普段の会話でも言葉遣いに気を付けて話す児童が増えてきた。

本校の実態として、名前を呼ばれたときに返事ができない児童がいる等、新たな課題も明らかになってきた。3学期からは、「久保のこだわり」の指標に「返事」の項目を追加し、取り組んでいる。